

別紙2 検証項目の検証方法（a：非機能要件 倉敷市保健福祉）

シート	項番	大項目	中項目	メトリクス(指標)	非機能要件 レベル	選択レベル	検証方法
全庁	C.1.2.2	運用・保守性	通常運用	外部データの利用可否	2	2	業務データ及びアプリケーションのバックアップを行い、システム内に閉じて取得するデータのみでシステムの復旧を確認する。要件「A1.3.1」と合わせて確認する。
	C.2.3.5	運用・保守性	保守運用	OS等パッチ適用タイミング	4	4	ガバメントクラウドリフト後に、現行運用通り、正常にOSパッチ適用が実施できるか検証を実施する。
	E.1.1.1	セキュリティ	前提条件・制約条件	遵守すべき規程、ルール、法令、ガイドライン等の有無	1	1	ガバメントクラウド利用規約、もしくは本事業に伴って庁内セキュリティ規約が改訂される場合、その内容に応じて、必要な検証を実施する。
	E.2.1.1	セキュリティ	セキュリティリスク分析	リスク分析範囲	1	1	ガバメントクラウドへのデータ移行にあたり、自治体において個人情報保護審議会への諮問や特定個人情報保護評価書(PIA)の再評価を実施する。
	E.4.3.4	セキュリティ	セキュリティリスク管理	ウィルス定義ファイル適用タイミング	2	2	ウィルス定義ファイルは庁内サーバより取得する。庁内サーバからウィルスパターンファイルを取得できることを確認する。
	E.5.1.1	セキュリティ	アクセス・利用制限	管理権限を持つ主体の認証	1	1	管理者アカウントはガバメントクラウドにリフト後も変更しない。同じアカウント/パスワードでアクセスできることを確認する。
	E.5.2.1	セキュリティ	アクセス・利用制限	システム上の対策における操作制限	1	1	ガバメントクラウドにリフトするサーバは管理者以外は操作できない。これはリフト後も変更しないため、サーバ管理者アカウント以外でサーバにログオンできないことを確認する。
	E.6.1.1	セキュリティ	データの秘匿	伝送データの暗号化の有無	1	1	現行暗号化していないので対策を行う。要求レベルはパスワードのみ暗号化。
	E.6.1.2	セキュリティ	データの秘匿	蓄積データの暗号化の有無	1	1	業務システムを操作するパスワードについては業務システムデータベース内のみ格納されている。業務システムデータベース自体は暗号化されている仕様であるため、必要な要件を満たしている。特に検査項目はない。
	E.7.1.1	セキュリティ	不正追跡・監視	ログの取得	1	1	本システムにおいては、不正なアクセスが発生した際に備えてOSイベントログおよび業務システムアクセスログを取得している。ガバメントクラウドにリフト後も要件レベルの変更は行わず、現行設定通りにOSイベントログが取得されることを確認する。
	E.7.1.3	セキュリティ	不正追跡・監視	不正監視対象（装置）	1	1	要件「E.7.1.1」を実施することで、検証項目を実施したと見なせる。
	E.10.1.1	セキュリティ	Web対策	セキュアコーディング、Webサーバの設定等による対策の強化	1	1	WebシステムのコーディングについてはCookieやURLパラメータ等に宛番番号等の重要情報が格納されない設計になっており、ガバメントクラウドにリフト後も特に変更はない。Webサーバについてはシステムの正常URL以外にアクセスされた場合に表示される内容で、サーバの種類等が顕微されたい表示になることを確認する。
	E.10.1.2	セキュリティ	Web対策	WAFの導入の有無	0	0	現在WAFは導入しておらず、ガバメントクラウドにリフト後も現時点では使用予定がないため、検証しない。

別紙2 検証項目の検証方法（a：非機能要件 倉敷市保健福祉）

シート	項番	大項目	中項目	メトリクス(指標)	非機能要件 レベル	選択レベル	検証方法
業務主管部門	A.1.3.1	可用性	継続性	RPO（目標復旧地点）（業務停止時）	2	2	ガバメントクラウドで提供されるPaaS機能を利用したバックアップ/リストア利用を想定。またバックアップの取得は下記の2種類を想定。 ①データベース/アプリケーション/ファイルレベル ②OSイメージレベル 両方の方式で復元できることを確認する。
	A.1.3.2	可用性	継続性	RTO（目標復旧時間）（業務停止時）	2	2	要件「A1.3.1」の復旧テストにおいて処理時間を計測し、要求レベル時間以内に復旧できることを確認する。
	A.1.3.3	可用性	継続性	RLO（目標復旧レベル）（業務停止時）	2	2	要件「A1.3.1」の復旧テストにおいて全システムの復旧ができることを確認する。
	A.1.4.1	可用性	継続性	システム再開目標（大規模災害時）	2	2	要件「A1.3.1」で使用する機能にて、通常稼働時とは別リージョンにシステムを復旧し、使用できることを検証する。
	A.1.5.1	可用性	継続性	稼働率	3	3	ガバメントクラウドでは本稼働していない段階のため、評価不可能。ただし、本計画ではシステムベンダー社内からガバメントクラウドに接続することを予定しており、目標の稼働率は達成できる見込み。
	B.1.1.1	性能・拡張性	業務処理量	ユーザ数	1	1	要求事項としては、ユーザー数の上限が決まっている状況であり、ガバメントクラウドに移行後も利用ユーザー数に変更はないため、要件は満たしているが、本稼働に向けたテストとして全職員が1度はガバメントクラウド上のシステムにアクセスし、利用できることを確認する。
	B.1.1.2	性能・拡張性	業務処理量	同時アクセス数	1	1	同時アクセス数は業務ごとに定義しており、その数値はガバメントクラウド移行後も変わらない設計である。試験期間中に、職員による一斉アクセス日を設け、同時接続時の負荷テストを実施する中で、現行と同等の同時アクセスが可能であることを確認する。
	B.1.1.3	性能・拡張性	業務処理量	データ量（項目・件数）	0	0	データ量、リクエスト数、バッチ処理件数について、ガバメントクラウドに移行後も要件上及び設計上の変更はない。試験対象外とする。
	B.1.1.4	性能・拡張性	業務処理量	オンラインリクエスト件数	0	0	データ量、リクエスト数、バッチ処理件数について、ガバメントクラウドに移行後も要件上及び設計上の変更はない。試験対象外とする。
	B.1.1.5	性能・拡張性	業務処理量	バッチ処理件数	0	0	データ量、リクエスト数、バッチ処理件数について、ガバメントクラウドに移行後も要件上及び設計上の変更はない。試験対象外とする。
	B.2.1.4	性能・拡張性	性能目標値	通常時オンラインレスポンスタイム	3	3	現行システムとガバメントクラウドに移行後のシステムと比較して、オンラインレスポンスタイムが著しく劣化しないこと、及び3秒以内という基準を満たすことを確認する。
	B.2.1.5	性能・拡張性	性能目標値	アクセス集中時のオンラインレスポンスタイム	2	2	要件「B1.1.2」の検証を行う中でオンラインレスポンスタイムの計測を行い、5秒以内という基準を満たすことを確認する。
	B.2.2.1	性能・拡張性	性能目標値	通常時バッチレスポンス順守度合い	2	2	データ量、リクエスト数、バッチ処理件数について、ガバメントクラウドに移行後も要件上及び設計上の変更はない。各業務のバッチ処理を現行システムとガバメントクラウドに移行後の環境で処理時間比較を行い、著しく劣化しないことを確認する。
	B.2.2.2	性能・拡張性	性能目標値	アクセス集中時のバッチレスポンス順守度合い	2	2	データ量、リクエスト数、バッチ処理件数について、ガバメントクラウドに移行後も要件上及び設計上の変更はない。各業務の月次処理、年次処理等負荷の高いバッチ処理を現行システムとガバメントクラウドに移行後の環境で処理時間比較を行い、著しく劣化しないことを確認する。
	C.1.1.1	運用・保守性	通常運用	運用時間（平日）	1	2	現行運用と同じ時間設定でのサイクル運用テストを行い、不具合が発生しないことを確認する。
	C.1.1.2	運用・保守性	通常運用	運用時間（休日等）	1	1	現行運用と同じ時間設定でのサイクル運用テストを行い、不具合が発生しないことを確認する。
	C.1.2.5	運用・保守性	通常運用	バックアップ取得間隔	4	4	現行運用と同じ時間設定でのサイクル運用テストを行い、不具合が発生しないことを確認する。
	C.4.3.1	運用・保守性	運用環境	マニュアル準備レベル	2	2	情報システムの通常運用マニュアルは変更ない見込み。保守マニュアルについてはガバメントクラウドのIaaSサーバ管理、及びPaaS機能利用分を更新する。
	C.4.5.1	運用・保守性	運用環境	外部システムとの接続有無	1	1	外部システム（情報提供ネットワーク含む）とは庁内設置の共通基盤システムを介しての連携を行っている。ガバメントクラウド移行後も庁内の共通基盤システムと連携できることを確認する。
	C.5.2.2	運用・保守性	サポート体制	保守契約（ソフトウェア）の種類	2	2	ガバメントクラウド移行後も本要件に変更はない。ミドルウェアの更新が必要な場合に手動で実施することとしている。業務システムのアップデートについては、現行で定期的にリリースしている作業を、ガバメントクラウド移行後環境でも実施する。
	D.1.1.2	移行性	移行時期	システム停止可能日時	4	4	環境構築、及びデータ移行試験時に、システムの運用時間外の範囲で移行できることを確認する。
	D.3.1.1	移行性	移行対象（機器）	設備・機器の移行内容	3	3	本稼働時に現行使用しているサーバのうち、ガバメントクラウドに移行したサーバの分は撤去する。
	D.4.1.1	移行性	移行対象（データ）	移行データ量	*	2	移行試験の中で移行データ量を確認する。
	D.5.1.1	移行性	移行計画	移行のユーザ/ベンダー作業分担	1	1	本番運用切り替えに向けた移行計画書を作成する。検証期間中に本番移行リハーサルを実施し、移行計画自体の検証を行う。
	F.1.1.1	システム環境・エコロジー	システム制約/前提条件	構築時の制約条件	1	1	要件「E.2.1.1」を実施することで、検証項目を実施したと見なせる。
	F.1.2.1	システム環境・エコロジー	システム制約/前提条件	運用時の制約条件	1	1	要件「E.2.1.1」を実施することで、検証項目を実施したと見なせる。

別紙2 検証項目の検証方法（a：非機能要件 倉敷市保健福祉）

シート	項番	大項目	中項目	マトリクス(指標)	非機能要件 レベル	選択レベル	検証方法
実現方法	A.3.1.1	可用性	災害対策	復旧方針	2	2	要件「A.3.2.1」を実施することで、検証項目を実施したと見なせる。
	A.3.2.1	可用性	災害対策	保管場所分散度（外部保管データ）	2	2	ガバメントクラウドで提供されるPaaS機能を利用した遠隔地保管方式への変更を想定している。この遠隔地保管したデータを用いたシステム復旧を実施することで確認する。要件「A1.3.1」で実施するテストにて確認できる見込み。
	A.3.2.2	可用性	災害対策	保管方法（外部保管データ）	1	2	要件「A.3.2.1」を実施することで、検証項目を実施したと見なせる。
	C.1.2.3	運用・保守性	通常運用	データ復旧の対応範囲	1	1	要件「A.1.3.1」を実施することで、検証項目を実施したと見なせる。
	C.1.3.1	運用・保守性	通常運用	監視情報	4	4	ガバメントクラウドで提供されるPaaS機能を利用した監視を予定している。監視対象のリソース異常時に通報が実施できることを確認する。
	C.5.9.1	運用・保守性	サポート体制	定期報告会実施頻度	3	4	保守定例会議は現行月次開催である。ガバメントクラウドへリフト後も保守定例会議を開催する。
	C.5.9.2	運用・保守性	サポート体制	報告内容のレベル	3	3	要件「C.5.9.1」を実施することで、検証項目を実施したと見なせる。
	C.6.2.1	運用・保守性	その他の運用管理方針	問い合わせ対応窓口の設置有無	1	1	システム保守拠点にて問い合わせ対応を実施しており、ガバメントクラウド移行後も変更予定はない。
	D.1.1.1	移行性	移行時期	システム移行期間	4	4	要件「D.5.1.1」で実施する移行リハーサルにて、移行期間の達成度を確認する。
	D.1.1.3	移行性	移行時期	並行稼働の有無	1	0	要件「D.5.1.1」で実施する移行リハーサル後の動作確認にて移行後の運用確認が可能であり、ガバメントクラウドへ業務システムをリフトするうえでの並行稼働期間は設けない。
	E.3.1.2	セキュリティ	セキュリティ診断	Web診断実施の有無	1	1	例えば、AWSで利用可能な「Amazon Inspector」サービス、またはそれに類するサービスを利用し、セキュリティ診断を実施する。診断結果で、設定手順等を変更する必要がある場合は構築手順書にフィードバックする。